

## 介護歌暦

西谷 克巳

妻の叫び声に階段をかけた上がった。平成25年12月17日白昼、突然の事だった。

救急の サイレン近づき ほっとする 妻の目を見て 大丈夫と祈り

左脳 広く出血 認めるも 主治医の言葉 急所はずれと

常日ごろ 血圧低め 妻倒れ まさかと思う 脳出血とは

救急で 運ばれてより 三日目に 早や始まりぬ リハビリ施療

爪のびて 妻が差し出す 右の手の 指はいまだに 動きが鈍く

春の雪 病室の窓 眺めては 我の帰りを 妻案じおり

リハビリ病院に転院した。平成26年2月10日、久しぶりの外、妻は雪景色に驚いた。

病室に 差し込む光 春の色 妻の顔にも 表情戻り

菜花摘む 手を休めては 病室の 妻の気持ちに 思い巡らし

病室に 入るや妻は 話し出す 我の到着 今か今かと

見舞う度 良くなっている 妻が言う 退院したら 手伝うからと

主治医より 一時帰宅の 許可が出て 家族揃って 夕食の時

活気ある リハビリ室で 妻を見る とことこ歩く 真剣な顔

四月になるとリハビリ効果は明らかだった。平成26年5月10日、退院の日、早めに迎へに行くと妻は荷物をまとめ待っていた。

朝早く 目覚めて見るは 五月晴れ 妻の退院 祝うが如く

退院日 長女の来訪 伏せおいて 妻は大声 満面の笑み

一階の 和室を妻の 城とする 時に寝室 時にリハビリ

風呂以外 手間のかからぬ 妻なれど 苦勞をかけてと 我に言う

食事後の 食器洗いと 戸棚入れ 妻が自ら これもリハビリ

少しずつ 昔の記憶 蘇える 息子負ぶった 夕食支度

家庭復帰は順調だった。しかし、平成26年7月5日、歩行器で歩道を散歩中、躓いて転倒した。腰の打撲痛に立つこともできなくなり救急入院の五日間だった。

転倒が 妻の心に 恐怖を刻み 始めの一步 程遠くなり

我が腕を しっかり掴み 歩く妻 狭い家中 リハビリの場所

ガラス戸の 向うで妻は 我を呼ぶ 箒を投げて 家にかけて込み

明け方に 妻の呼ぶ声 パパパパと 手洗い終えて 有り難う

歯を磨く 妻を後ろで 支えては 左手使い 器用になりて

世間では 老老介護と 呼ぶ日々に 夫婦の願ひ 明るい明日

老いて尚、人の為に生きる事が生甲斐であると言う。私は今、それを知らされている。